

9年の歳月をかけ経営学部の学生が制作した映画、ついに劇場初公開  
映画『HARD BLUE 蒼穹（そうきゅう）』3月26日（土）より公開決定  
上映期間：3/26（土）～4/1（金） 上映劇場：K's cinema

文京学院大学（学長：櫻井隆）は、経営学部のコンテンツ実務研究ゼミナール（担当教員：公野勉教授）で学生20名が6年の制作期間と、3年の準備期間を経て完成した映画『HARD BLUE 蒼穹（そうきゅう）』が、3月26日（土）～4月1日（金）の1週間期間限定で、新宿の映画館K's cinema（ケイズシネマ）にて、初上映されることが決定しましたので、お知らせいたします。

本作『HARD BLUE 蒼穹』は、「“父子関係”こそが日本文化の原型である」をコンセプトに、「父子の意味を問う」をテーマとして、親子の愛情を描いています。

学生たちの圧倒的な映像制作技術や、見る人の琴線に触れるストーリーを是非、劇場でお楽しみください。

映画『HARD BLUE 蒼穹』制作から、劇場初公開まで

文京学院大学経営学部コンテンツ実務研究ゼミナールでは、コンテンツプロデュース論を専門に研究をしています。その研究の一環として制作した映画『HARD BLUE 蒼穹』は、公野教授が構想を練り、当時、本学大学院1年生であった古川大志氏に脚本を依頼、コンテンツ実務研究ゼミナールの学生延べ20名がプロデューサー等、制作全般を担当し、2014年から6年の歳月をかけて完成させた感動巨篇です。その後、文京映画祭での上演（2019年）を経て、この度、映画館での初上映が決定いたしました。

映画『HARD BLUE 蒼穹』

■あらすじ

過激派組織の一員・タガミナオ。

腕っぷしも強く、狙撃の腕も一流だが、単純な性格のためか長年、泥仕事ばかりだった。

そんなナオに組織が出した指令は、“オウサマ”の狙撃。

組織からの信頼故に大役を任されたと信じるナオに、師である義父に預けていたひとり息子・コマが同行する。

男らしさ、思想、歴史、母親への慕情――

さまざまな想いに、いつしか心通わせていく父親と息子。

そんな初々しいふたりに訪れたのは衝撃の結末だった。

■上映情報

期間：3月26日（土）～4月1日（金） 1週間限定公開

時間：全上映 AM10:30～

劇場：K's cinema

（住所：東京都新宿区新宿3丁目35-13 SHOWAKAN 3F）

料金：当日券/一般：1,500円（税込） 学生：1,300円（税込）

シニア：1,000円（税込）

前売券/1,000円（税込） K's cinemaにて販売

<公式サイト> <http://kunoieiga.com>

<Twitter> [https://twitter.com/sokyu\\_2019](https://twitter.com/sokyu_2019)





映画『HARD BLUE 蒼穹』PV映像

<https://youtu.be/gOcj0qG9Fz4>

## ■作品概要

タイトル	: 『HARD BLUE 蒼穹 (そうきゅう) 』
出演	: 野川雄大、YAMATO、松嶋創、川村順一 (本学大学院客員教授)、鎌田美咲 (本学卒業生)
上映時間	: 82 分間
監督	: 公野勉 (経営学部教授)
脚本	: 古川大志
プロデューサー	: 古川大志、長瀬力丸、玉川隆昭 (本学卒業生)
編集	: 矢可部薫 (本学卒業生)
協力	: 株式会社サンライズ
制作	: 文京学院大学経営学部 コンテンツ実務研究ゼミナール (公野研究室)

## ◆経営学部 公野勉教授のプロフィールとコメント



本学経営学部教授。1993年、円谷プロダクション入社。東北新社、ギャガ・コミュニケーションズを経て、日活へ籍を移す。過去に『鮫肌男と桃尻女』『レディ・ジョーカー』等を手がけたほか、『劇場版ポケットモンスター』では制作に参画。日活では取締役として映像開発本部本部長・配給部長兼製作部長を務める。2010年より本格的に大学での後進育成を開始し、2011年より本学経営学部で「コンテンツプロデュース論」などの科目を担当。

### 【コメント】

2013年に公野研究室に在籍した学生らが撮り、次代の後輩学生らが修復して完成した2019年の映画祭招待作品を、さらにその後輩が配給、『蒼穹 HARD BLUE』として公開が確定しました。代々の学生がバトンを受け継ぎながら、9年をかけてたどりついた成果です。「創るだけでなく届ける」事が他大学には無い、当大学の唯一性の高いコンセプト。商品である以上、撮影するだけではなく、観客に届けてこそその映画です。学生が受け継いできた想いをぜひ劇場で御覧頂ければと思います。